

しかし、<sup>むら しょうや</sup>村の庄屋だけは

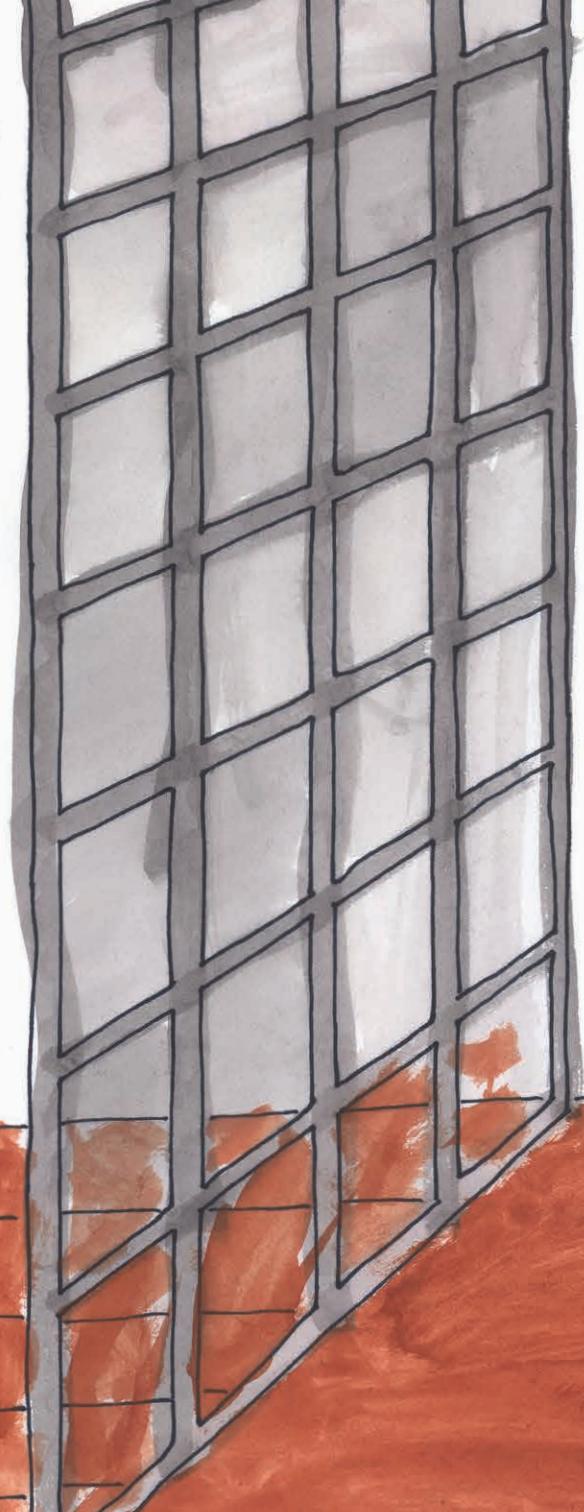
<sup>さ だゆう</sup>佐太夫さんのことをねたみました。

そして、<sup>びょうき</sup>病気で亡くなった<sup>な</sup>義理の<sup>ざり</sup>お母さんを

<sup>ころ</sup>殺したという疑いをかけて、

<sup>ろうや</sup>牢屋に入れてしまいました。





ふゆ  
冬になりました。

ろうや なか さむ さ だゆう  
牢屋の中は寒いので、佐太夫さんは

はおり さ い ねが  
羽織の差し入れをお願いしました。

すると、<sup>むらびと</sup>村人は

「わしのでよかったら、<sup>つこ</sup>使うてくれんさい。」

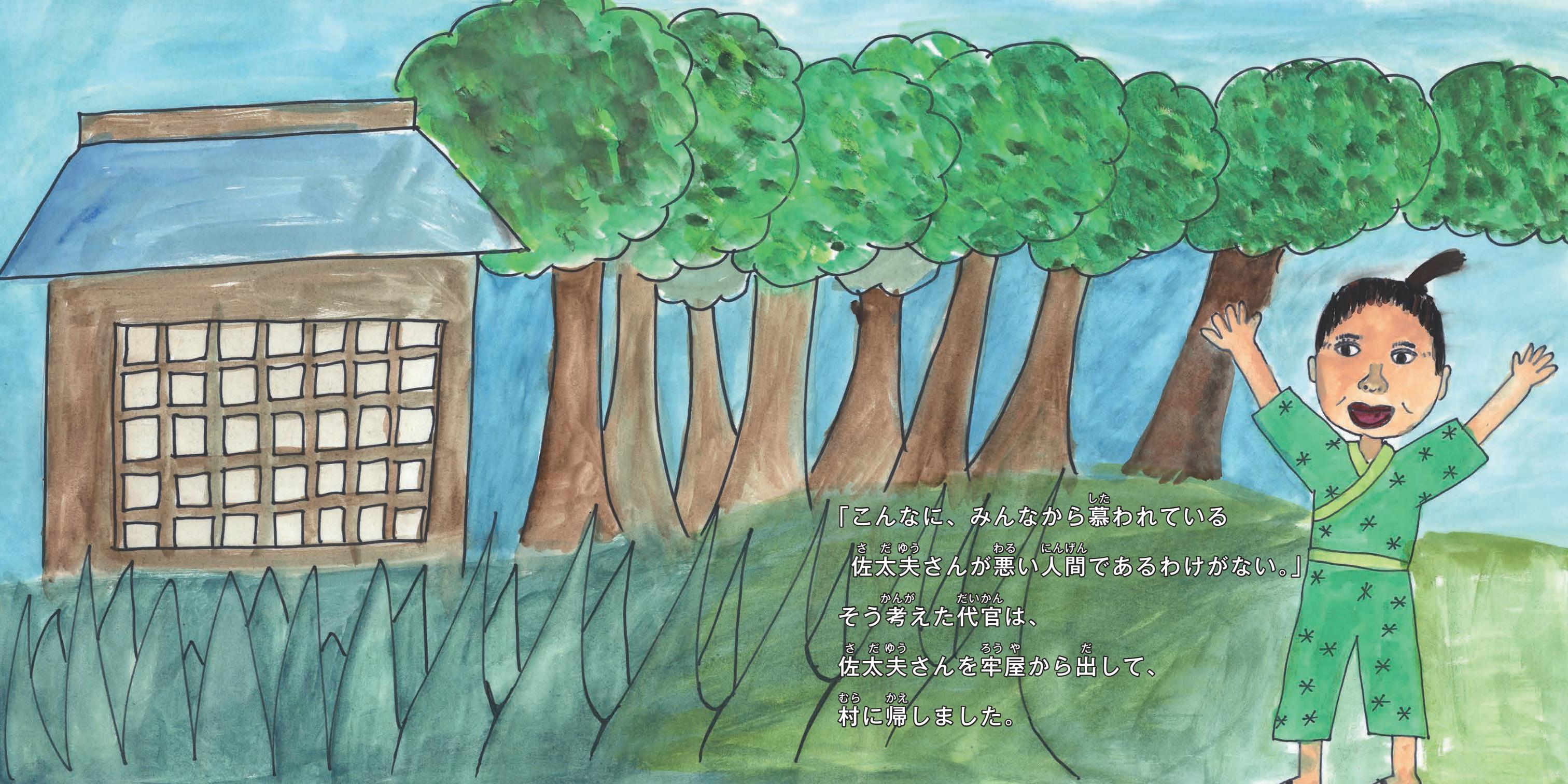
「<sup>たす</sup>うちらを助けてくれた<sup>さ だゆう</sup>佐太夫さんに

<sup>さむ おも</sup>寒い思いをさせちゃあいけんよ。」

と言って、「<sup>い</sup>うちも」、「<sup>い</sup>わしも」と、<sup>は おり ろう や おく</sup>羽織を牢屋に送りました。

その<sup>かず</sup>数は、<sup>まい</sup>100枚にもなりました。





「こんなに、みんなから慕したわれている  
佐太夫さだゆうさんが悪い人間わるにんげんであるわけがない。」

そう考えた代官かんがだいかんは、

佐太夫さだゆうさんを牢屋ろうやから出だして、

村むらに帰かえしました。

しかし、<sup>むら</sup>村に<sup>かえ</sup>帰る<sup>とちゆう</sup>途中、

<sup>さ</sup>佐<sup>だゆう</sup>太夫さんは、<sup>しょうや</sup>あの<sup>ころ</sup>庄屋に殺されてしまいました。



ところが、<sup>さ</sup>佐<sup>だゆう</sup>太夫さんが<sup>な</sup>亡くなったあと、

<sup>しょうや</sup>庄屋は<sup>かみなり</sup>雷に<sup>し</sup>うたれて死んでしまいました。



とし なつ た み むし  
その年の夏、田んぼには、見たことのない虫が  
はっせい いね た つ  
たくさん発生し、稲を食べ尽くしました。

うし うま げんいん わ びょうき  
また、牛や馬は、原因の分からない病気で、  
し  
みんな死んでしまいました。



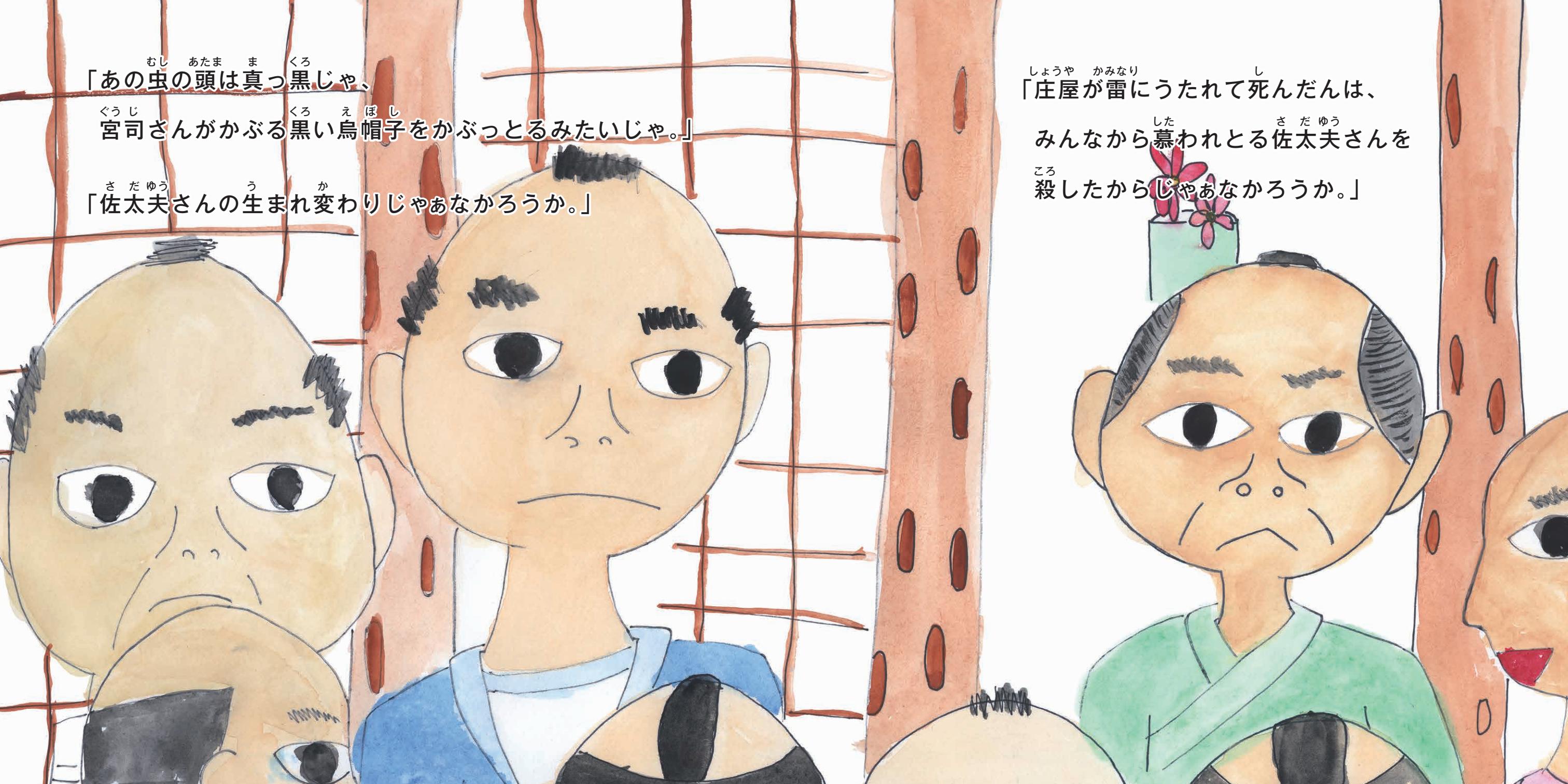
「あの虫の頭は真まっ黒くろじゃ、

宮司ぐうじさんがかぶる黒い烏帽子くろ えぼしをかぶっとるみたいじゃ。」

「佐太夫さ だゆうさんの生まれ変わう かりじゃあなかろうか。」

「庄屋しょうやが雷かみなりにうたれて死しんだんは、

みんなから慕したわれとる佐太夫さ だゆうさんを  
殺ころしたからじゃあなかろうか。」



榊山神社

そこで、<sup>さかきやまじんじゃ</sup>榊山神社では  
<sup>さだゆう</sup>佐太夫さんの<sup>にんぎょう</sup>わら人形<sup>つく</sup>を作って、  
<sup>なのかななよ</sup>7日7夜、<sup>いの</sup>お祈り<sup>い</sup>しました。  
すると、<sup>わる</sup>悪い<sup>お</sup>ことは起<sup>お</sup>こらなくなりました。





いま くまのちょう さだゆう はか  
今でも、熊野町にある佐太夫さんのお墓は  
たいせつ  
大切にされています。